

# みずみどり

2000年5月15日 第18号

発行：いたばし水と緑の会 事務局

年会費 2,000円 郵便振替 00170-8-352508 いたばし水と緑の会  
ホームページ <http://www.ne.jp/asahi/nature/land/index.htm>

E-mail: [mizumidori@nifty.com](mailto:mizumidori@nifty.com)

〒173-0032 板橋区大谷口上町28-7 江戸方

## 自然保全活動の新しいかたちをつくりたい

### 総会の報告と12年度に取り組むこと

4月22日の総会は23人が出席し、会長鈴木信子と、運営委員（植田隆夫、江戸きよみ、大西優、小寺正明、菊池よし子、坂本郁子、下田沢子、釣巻岳人）による運営体制が承認されました。これまで事務局の実務はボランティアで運営してきましたが、連絡先が環境保全課内になっていたため、区役所の組織とまぎらわしいという指摘があり、形の上からも環境保全課と切り離れた市民団体となります。

改正規約では、運営委員会によって、運営方針や活動計画を作成し、執行することが明文化されました。したがって、12年度の目標として、とくに「運営の透明性の確保と公平な役割分担」をあげました。運営委員会で議論し、決まったことをきちんと実行することによって、私たちの自然回復を目指す会の信頼を育てていきたいと思えます。

これまで、荒川自然回復団と赤塚の森ボランティアの2つのプロジェクトがありました。赤塚の活動は順調に進んでいますが、建設省による荒川笹目橋緑地の自然回復整備工事が中止になったことにより、荒川の活動が宙に浮いた形になっています。広大な荒川笹目橋緑地の自然回復に会がどのように関わっていくのかも大きな課題です。また、新たにボランティア講座修了者を中心としてつくった徳丸が原公園の自然池が活動フィールドとして加わりました。ここは赤塚と荒川の間際に当たり、生き物の移動の中継地点の役割を果たすのではないかと考えられます。

自然が戻ってくるのはうれしいことです。会が自然回復の働きかけをするからには、多くの人に理解してもらえるようPRするとともに、自然の勉強をし、自然地として維持していく責任もあります。

新しい年度ということで、堅い話で失礼しました。基本はきちんと、活動は楽しくといきましょう。

### インターネット上に掲示板を設置しました

みなさまからのご意見、ご感想をお待ちしています。

4月23日からインターネット上に「いたばし水と緑の会」の掲示板を設置しました。「掲示板」とは文字通り誰でも自由に書き込みができ、みんながそれを閲覧できるようにしています。

この会の活動に関するご質問、ご意見はもちろんホームページや広く板橋の自然についてのご感想などを掲示板に書き込んでください。

この掲示板へは「いたばし水と緑の会」のホームページ

<http://www.ne.jp/asahi/nature/land/index.htm>

からアクセスできます。

## 徳丸が原公園池づくり初体験

下田 沢子

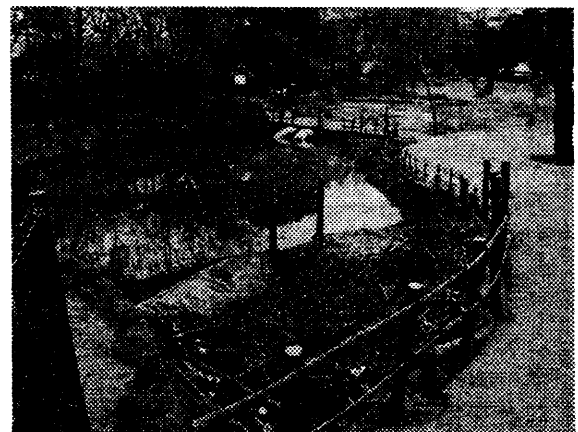
朝から汗ばむくらいの良いお天気に恵まれ、作業は始まりました。久しぶりの長靴と軍手でいそいそ現場に立ち降りたときには、今までの講座・勉強会の時間を思い出し熱い思いもこみあげたりして、実際に池作りができることを幸せに感じていました。

コンクリートの堰・縁の取り壊し、また、立派な根をはった柳の木2本の処理は本当に体力勝負だったと思います。見るからに自信のありそうな男性陣が電動工具を使って黙々と壊してゆく作業のかたわら、女性陣他はまわりの土を池の深さに応じて掘り、掘った土を池の外へ運び出しました。

宝物発見！！冬眠中のカエル・亀・甲虫の幼虫です。起こすにはちょっと早いかなと思いながら安全地帯に避難させました。切った柳の木を枝と幹に分け、枝は柵用に長さを切りそろえ、先端をナタでとがらせていきます。ずっしり重い柄を立てて片手で押さえ、片手でナタを狙った所に振り下ろすのです。これは鉛筆削りとは訳が違います。私も挑戦して、うまいとは言ってもらえなかったけれど、「次はきっと・・・」と思っています。その後の柵作りは魅力的でした。支部長さんのパワフルな杭打ち作業・シュロ縄の仕上げの美しさは皆さんにぜひ見ていただきたいと思えました。

なかでも、声を大きくして言いたいこと、それは、ごみを出さない工事だったことです！！コンクリートの残がいと柳の枝は浸透部に使用、柳の幹は前記のとおり立派な柵に生まれ変わり、その枝からはもう新芽が出てきています。土手の補強や植え込みになってくれるでしょう。今後の池作りにもぜひ考慮していただきたいと願っています。

作業は大変でした(後日、身体が語っていましたが)、水を張り確認した“池の出現”に感動しました。水と緑の会の皆さん・町会の皆さん他、ご協力いただいた皆さんお疲れさまでした。やがて、ひとまわり大きな自然を子供たちにプレゼントできると思います。今後の維持にもぜひご協力をよろしくお願いいたします。(作業は12年3月18、19、25日、4月9日の4日で、手作りで池が完成)。



## 徳丸が原公園内の自然池 その後 (No. 1)

### 感激！！ 池にカルガモ夫婦 訪れる

大西 優

5月4日、朝7時20分頃、散歩で同公園にさしかかり、通り抜けようとして池の方を見ると、なんと、カルガモ2羽が池の中で気持ちよさそうに泳いで、羽を休めているではないでしょうか。

一瞬、目を開き直しました。100㎡あまりのこんな小さな池に！！

この感激を池づくりに参加した人たちにも伝え、見せたい！！という思いから、カメラを取りに家に飛んで帰り、「どうか戻るまでいてくれ」と願いながら、池にとって返しました。

ゆったり泳いでおり、近づきすぎて飛び立つのが心配で、最初は遠くから写真を撮りながら近づき、フィルム最後のシャッターを切ったところで、仲良く一緒に飛び立っていきました。

池ができてから子供たちの格好の遊び場になり、木の枝やごみなどが投げ込まれて、清掃作業がたいへんでした。子供たちには少々かわいそうでしたが、4月27日に坂本さんや区の環境保全課の方たちで、現況の柵の上にトラロープを張り、看板を追加してくださって以来、このようないたずらはすっかり少なくなりました。

4月29日、アメンボ数匹が波紋を描いていました。

5月7日、誰かが放したのか、おたまじゃくし3兄弟ならぬ、3匹がちょこちょこと尾を振りながら泳いでいました。

アメンボの数も増えてきました。

こんな小さな池にも、春とともに命の息吹が感じられるようになりました。



## 和光市の湧き水を見に行く会に参加して

嶽野 香

4月1日土曜日、風が少々強かったけど天気は快晴、桜もちらほら咲きだした中、水と緑の会のメンバー約20名は、成増駅を背にして東武東上線に沿うようにして、埼玉県との県境にある白子川へと歩いて行きました。ここで、今回の和光市の湧き水を案内してくださる須貝さんを紹介されました。

最初に、白子川に注いでいる配管の1つが湧き水であることを知り、驚きました。たいてい、配管から流れているものは、工場や民家の排水であるとのイメージが強かったからです。また、民家の道端に

も湧き水が流れていましたが、子供が落ちないようにとかの理由で、コンクリートのふたで閉められてしまい、自然の湧き水が見れないのが残念でした。

次に、熊野神社に案内されて境内を見学すると、境内の後ろが湧き水の水路になっていました。境内の脇で滝になっていて、以前はこの湧き水を利用して修行の場にしていたり、養魚場にも湧き水が利用され、マスがいたとのことでした。

神社を出てから少し行くと川越街道があり、街道わきにも湧き水が流れていました。ここは、現在駐車場になっていますが、まだ端の方に湧き水が流れていて、クレソン、セリ、ホソバミズゼニゴケが生息していました。以前は、近くのお風呂屋さん、魚屋さんなどが湧き水を利用していたそうですが、現在は使っていないそうです。一般の民家の人も昭和50年代後半くらいまではこの湧き水をくみ、その水でビールを冷やしていたそうです。また、この辺りは水がうまく引けないことから、湧き水をうまくタンクにくみ、それを田んぼに流していたとのことでした。

和光市は元宿場町だったようで、その古い街並みに沿って歩いて行くと、今でも湧き水をタンクにくみ上げ、洗い物をしたりする時に利用している家庭がありました。

しかしその一方、開発の波も容赦なく進んでいて、大型マンションの建設も次々に行われ、湧き水の水路がどんどん埋もれていってしまうという寂しい事実も否めないのが現実です。

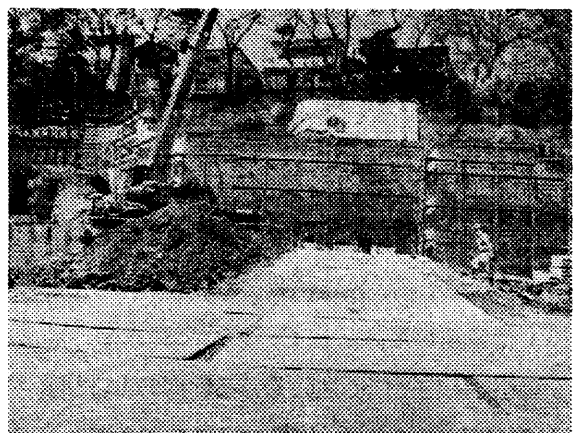
最後に見た湧き水の水路が、まさに今現在大型マンションを建設中でした。湧き水は埋め立てられ、地面の下に砂利を敷いてそこに湧き水を集め、管を引いてそこから白子川へ流すとのこと。この地は少し前まで日本料理屋さんで、竹林が周りを覆い、湧き水を利用した日本庭園風になっていたそうですが、折からの不況のせいか倒産、マンション建設となったようです。

私自身、時折自然との触れ合いに心がいやされることが多々あります。利便性を考えると、自然破壊が若干回避できない面もあるようですが、今後、「自然と共生しながらの街づくりとは何か？」を考えさせられた見学会でした。

旧川越街道沿いの湧き水の豊かな流れ



湧き水のあった場所はマンション建設中



## 板橋のミツバチ (3)

干場 英弘

## ハチはどんな時に刺すか？

一般的にハチの仲間はハチ自身が危険を感じなければ刺すことはない。誤って巣の付近を通ったり、ハチの巣をつくとハチが驚き、周囲の人を攻撃することがある。ハチの仲間は黒いものをめがけて攻撃しやすいので、ハチの危険を感じる場所では明るい衣服を身に付け黒髪や目、鼻の周辺に気をつけるべきである。周辺に飛んできたなら、帽子などで黒髪を隠し、じっとしている方が刺されることは少ない。髪の毛や毛糸などの服はいったんハチがたとえ休むためであっても(つまり刺す気がなくても)止まると、足が絡まって身動きが取れなくなり、結果として刺されやすい。1匹が刺針行動に出るとハチ毒成分の臭いによって周辺のハチも一斉に攻撃を仕掛ける場合がある。私は小雨が降る日、大きな木の上にできた巣別れの蜂群を採る作業中に、全身をいやと言うほど刺された事がある。防護用の網を着けていたので顔、頭は免れたが露出していた腕を中心に針で全体が黒くなり、まさに数えられないほどの針が体に残った。普段は刺されても腫れない私でもさすがに3日は腫れた。恐ろしい経験であった。ハチの経験がまだ浅かった頃の事である。

## 刺されて腫れるのは…

私はハチに刺されて腫れた経験がこの時以外にまったくない。生まれつきの体質である(痛みは普通の人ですから当然あります)。「いつも刺されているから免疫が出来ていて腫れないんだね！」と言われることがある。実は逆で、私の体は生まれつきハチの毒に対して免疫を作る遺伝子をもっていないので、ハチの毒に対して反応しないため腫れないだけである。反対に免疫を作る遺伝子を持っている人は腫れ、その反応が強烈になってしまう人もいる。アナフィラキシー・ショックの体質の人は刺されて数分のうちに血圧が極端に下がるなどの強烈的な反応が現れ、場合によっては命取りになるので医者に行き直る必要がある。このような体質の人でさえ、初めて刺されて、まだ抗体が体になくときは炎症を起こすことはない。

「刺されたらアンモニア」とよく言われるが効果は期待できない。副腎皮質ホルモン系の軟膏を塗る程度で、それでもひどくなる場合は医者に行くべきである。ただし、「雑菌が入るといけないので」と抗生物質を処置され、その抗生物質に対してアレルギー症状が生じ入院までした例を聞いたことがあるが、私の無数に刺された経験では一度もそれが原因で雑菌が入ったことはない。痒くなっても引掻いたりして雑菌が入らないように注意すべきである。

ミツバチの刺針には釣り針にあるような“返し”があるため、刺すとハチの体から針と毒袋などのセットが外れて人に残り、ピクピク動いて人の体に毒を注入する。そのため、「ハチは刺して死ぬ」と思われがちであるが、同時に内臓も抜けてしまう時を除いて、“蜂針セット”が抜けるだけではハチはその場ですぐには死なない。

巣別れのときはハチが一斉に飛び回るので良く怖がられるが、このときのハチは前述のように非常に機嫌が良く、めったに刺すことはない。ミツバチをあごに沢山つけて自慢している“ハチひげおじさん”の写真などを見た人もいると思うが、巣別れで出た女王蜂を捕まえてあごにつけると一斉に集まってくるので、「そこを写真!!」と言うわけである。とはいえ、私はそのような“馬鹿真似?”はしたことがないし、するとひどく刺されるかもしれない(興味はあるが…)



図4 巣別れで巣の近くの木に集まったニホンミツバチ。2000年5月6日 蘆根にて



図5 トウヨウミツバチに刺されて片目が開かなくなった養蜂家。ハチは目の周辺など黒い部分を刺しやすい。1980年5月。フィリピンにて

## 上州武尊山でツキノワグマに出会って

佐藤 修

私は植物観察や山の幸を探し、また、動物たちとの出会いを求めて山中を歩き回るのが好きだ。昨年の10月もキノコを採るため、上州武尊山のカラマツ林からミズナラとブナの混生する森に分け入った。いつも感じることだが、カラマツ林では餌が貧弱なためか動物の痕跡は少ない。ただ、近づくと凄スピードで走り去るノウサギには何度か驚かされたものだ。一方、大木がひしめくミズナラ林やブナ林では、ニホンザルの群れとも出会ったし、ツキノワグマの糞もよく見かける。これも、この森が豊かであり、餌も豊富な証拠だ。

先日もミズナラの大木の周囲に時間がたっていないとみられる薄紫色がかかった薄茶色のツキノワグマの糞を大量に発見した。あたりを見回すとミズナラの折られた枝が4、5本地面に横たわっていた。それも、全て受け皿だけをきれいに残し、ドングリは全て食べられていた。うまいこと食べよるなと思いつつ、再びミズナラの根元に近づき、何となく上の方を見ると、地上4~5m位であろうか、幹が二股の部分に何とツキノワグマがいるではないか。一瞬かなりびっくりしたが、よく見ると体長1m程度の子クマのようだ。首を左右に動かし、齧えているようにも見えた。野生の毛が太陽に美しく黒光りしていた。私は普段から森に入るときは鈴をつけ、クマ等に知らせるようにしている。このため、かなり奥深く森に入ってもクマと遭遇することはなかった。この子クマは食事中に逃げそびれたか、逃げるために這い上がったのか。どちらにしても、その場所を動かずにいるのが如何にも子クマらしかった。写真を2、3枚写し、あばよとそのクマに別れを告げた。その後森では、クマの糞や折られた枝は何度か見かけたがクマとの出会いはなかった。あの子クマは再び食事に励んでいるのであろうか。立派に成長することを祈った。そして、ミズナラやブナの豊かな森が守られることを願わずにはいられなかった。

以前キノコ採りの人が森の中を火薬を打ち鳴らしながら歩くのを見かけた。森の静寂を爆音で破壊しているような行為に私は憤りを覚えた。もしクマがいたら、恐怖と共に人間への敵意がインプットされ、今度は人を攻撃する可能性が高いと思われる。新聞でクマに襲われたとの記事を目にするが、そのクマもおそらく人間によるこの種の不幸な経験があるのではないだろうか。森は野生生物の生活場所である。彼らの聖域に入るときは、“少しの間だけごめんなさい”というくらいの気持があって当然であろう。また、過剰にならない程度に自分の存在を常に知らせ、食物等は絶対に置いてこないようにすべきである。(これは野生生物全般に対する基本的な心構えと思われる。)それでも万が一クマと出くわしたら、敵ではないと察知させるため、慌てず騒がず、ゆっくりその場を離れるといった冷静な態度が必要である。

クマが生息するような森に入らないまでも、近郊の山や雑木林で道をちょっとはずれて分け入ると、そこは全く別の森の空間が存在する。日常と別の空間に身を置くだけでも、さすがに豊か気持になれる。様々な発見もあり、未体験の人は是非試してもらいたいと思う。

## この夏、赤塚城址の草っ原が楽しみ！



以前の城址の草地は強く刈り込まれてほとんど芝生のような状態でした。

昨年の夏、昆虫調査で行ったときは草が伸びていました。バッタやコオロギがいっぱいいました。子供達は昆虫網をもって走り回り、なつかしい草原の風景が出現しました。しかしその次の調査では、再び草が刈られてバッタもいなくなっていました。ほんの少しの管理の違いが、生き物の生息環境を左右することを痛感しました。私たちは、公園協会の廣

木さんにこのことを話し、一律に草を刈るのでなく、草っ原を残して欲しいとお願いし、今回それが実現することになりました。広場の一角に低い柵をつくり（低いので中に入るのは自由）、柵内を草刈しない草地として残すことになったのです。

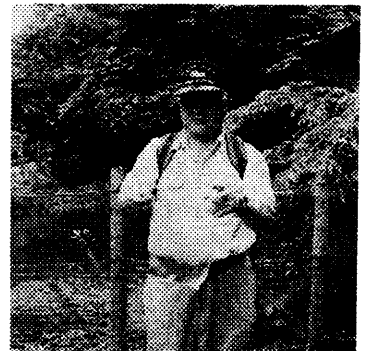
1月から、剪定枝を切り揃え、竹を割り、草原の自然をPRする看板を立てて準備を進め、仕上げの柵作りは4月8日。みんなで手際よく作業を進め1日で完成させました。公園協会で、支柱に使った杭を切り揃え、先を尖らせて用意していただき、シュロ縄以外は公園内の廃材です。すばらしい手の技を持つ会員に教えてもらい、斜面林保護柵に続く第2弾ということもあり、杭を打ち、竹を渡し、シュロ縄で縛る手つきも慣れてきました。周囲約100mの柵が出来上がり、桜を見ながらビールで乾杯。

草原は「雑草だ」と嫌う人が多いようです。だから草原の魅力を訴える場所にしたい。夏には、子供達が虫探し、自然とふれあう楽しみが、お月見にはススキの穂がゆれ、コオロギなど鳴く虫を聞く会を開く、もしかしてカンタンが聞けるかも……。一方で、どんな植物が育っていくかまじめに定期的に調査していきます。これを機会に島井先生に教えてもらいながら、本格的に植物の名前を覚えてみようかという人はいませんか。その他メニューはいろいろありそうです。

### 美術館前の自然池の清掃とザリガニの捕獲作戦

ザリガニ大繁殖の時期を迎えました。水草のほとんどないこの池で生まれたはずのオタマジャクシはどこ？ 昨年産卵していたトンボのヤゴは？ 元気がいいのはザリガニばかり。ブラックバスもいる？

5月13日、ザリガニ160匹を捕獲。写真は釣名人が釣り上げた金魚4匹を見せる田口さん。ザリガニは4月にも85匹を捕獲。



# 活動のお知らせ

どなたでも参加できます。くわしいことはそれぞれの連絡先にお問い合わせ下さい。

運営委員会は具体的な活動の内容を話し合い決定する場です。従来定の例会はなくなりませんが、運営委員でなくても運営委員会に参加しどしどし意見を言ってください（役割分担もよろしく）。

6月運営委員会 6月2日（金）18:00～19:00 場所：エコポリスセンター3階会議室  
19:00～20:00 新旧役員による引継。外野も歓迎。

7月運営委員会 7月7日（金）18:00～20:00 場所：エコポリスセンター3階会議室

7月会報印刷・発送 7月14日（金）17:30～ 場所：エコポリスセンター会議室

## ●自然池1年後の観察とこれからを考える

日時：5月21日（日）10:00～12:30

場所：美術館前

講師：(財)日本生態系協会 船橋玲二

内容：池の現状観察、勉強会と話し合い

連絡先：環境保全課坂本（3579）2598

## ●竹を使って大切なものを作ろう(2)

日時：7月1日（土）13:30～16:00

場所、持ち物、連絡先等は（1）と同じ

## ●ピオトープの植物調査に挑戦しませんか

たとえば、エノコログサでも、キンエノコロ、アキノエノコロなどの仲間があるので、きちんと区別して調査ができるようにします。調査の前に勉強会をします。勉強会の日程は未定。

連絡先：坂本（勤）（3579）2598

## ●竹を使って大切なものをつくろう(1)

日時：6月3日（上）13:30～16:00

場所：美術館前（遅れた人は竹林前）

雨天の場合は三園小学校

内容：プレゼントにしたり、売れそうな作品の試作

持ち物：小刀、軍手、必要な付属品

連絡先：猪鼻（3933）8269

## ●昆虫調査世話人募集

連絡先：釣巻（3961）2875

## ●ザリガニ退治応援

飽きずに飼育できる人やペットの餌などにザリガニがほしい人はどうぞ。捨てないのが条件。自信のない人はやめてね。

6月3日（土）7月1日（土）10時～12時

その他の日は適宜

集合：美術館前

連絡先：滝川（3934）3421

## ●ピオトープ勉強会(1)北本自然観察公園と荒川の見学

日時：6月11日（日）9:00～16:00

集合：区役所正面玄関前（高速前）

持ち物：弁当、水筒、双眼鏡、図鑑など

内容：車に分乗して行きます（要申込）

近くに荒川上流工事事務所が整備したピオトープがあり、外から見ます。

連絡先：菊池（3962）1937

090-4021-3862

12年度の会費の納入をお願いします  
（名簿作成の都合上、6月末までに）